

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査

地域産業の担い手及び支援人材育成推進調査
報告書

平成 22 年 3 月

経済産業省中国経済産業局

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査

地域産業の担い手及び支援人材育成推進調査
報告書
【要約編】

平成 22 年 3 月

経済産業省中国経済産業局

【目次】

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 本調査における地域産業の定義	1
3. 調査の内容	2
4. 調査実施方針	4
5. 本調査で定義する中山間地域の対象市町村	5
第2章 実証研修実施案の策定及び実施準備	7
1. 実証研修の検討フレーム	7
2. 実証研修実施案の策定	8
第3章 実証研修の実施と成果の検証	15
1. 実証研修の実施	15
2. 実証研修結果の検証	18
第4章 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施	21
1. 研修のねらい	21
2. 研修プログラムの作成	21
3. 研修講座の実施	24
4. 研修の成果検証と今後の展開	28
第5章 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言	29
1. 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言	29

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

経済産業省では、農林水産業と商業・工業等の産業間での連携（農商工連携）を支援する施策を集中的に実施し、新商品の開発や販路開拓を支援している。また、地域の強みとなる地域資源を活用した中小企業による新商品・新サービスの開発や販路開拓などについても支援を行い、地域の活性化を図っている。

しかしながら、中国地域においてこのような新事業への取り組みにより自立した地域経済の確立を目指すには解決すべき課題も多い。農林水産物やその他の地域資源が豊富に存在している場合でも、事業実施主体となる企業等が少なく、また、新たな事業に取り組む際の人材やノウハウが不足している。一方で、地域と一体となった取り組み等により大きな波及効果を上げている事例も存在している。

このため、平成20年度においては、成功事例の要因等を検証し、中山間地域の活性化につながる地域産業の担い手を創出する上で、地域において実践可能な人材育成及び産業支援ネットワーク形成方策を「地域産業の担い手創出のための方策調査」（以下、「担い手調査」という。）としてまとめたところである。

本調査は、平成20年度「担い手調査」の結果を踏まえ、地域の底力を発揮する仕組みづくりとして、地域産業の担い手及び支援人材の育成策を実証的に推進し、その育成手法を確立することを目的として実施した。

2. 本調査における地域産業の定義

本調査において対象とする地域産業は、平成20年度「担い手調査」の定義を踏襲する。その内容は下記のとおりである。

■本調査における地域産業の定義

- ① 中山間地域における農林水産業、工業、商業、観光等のサービス業及びこれらの複合産業
- ② 中山間地域において、地域資源の活用や地域内の産業連関を創出している内発型の産業
- ③ 主として地域外に市場を開拓している産業
- ④ 中山間地域の雇用や経済波及効果を創出する等地域社会への貢献を行っている産業

なお、本調査の報告書において、「農商工連携」及び「地域資源」という言葉を用いる場合には、特段の説明がない限り、広義の一般的な意味として、農林水産業と商業・工業等の産業間での連携及び地域固有の活用可能な自然・人的・文化的資源を指す。

3. 調査の内容

調査内容は、当初、仕様書に基づき下記の調査項目について実施計画案を作成し、調査委員会に諮ったところであるが、原案について検討を行った調査委員会における委員の意見を踏まえ、一部事業の実施方法の見直しを行った。

(1) 当初調査内容（仕様書に基づく原案）

① 地域産業の担い手育成のための実証研修の実施

- 平成 20 年度「担い手調査」で提言された担い手人材育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえた担い手人材育成研修における課題の抽出と解決方策の検討

② 地域産業の担い手を支える産業支援人材育成のための実証研修の実施

- 平成 20 年度「担い手調査」で提言された産業支援人材育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえた産業支援人材育成研修における課題の抽出と解決方策の検討

③ モデル地域における地域産業人材育成研修の実施

- 真庭地域において「担い手調査」で提言された木質バイオマス産業の担い手育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえたネットワークの形成とバイオマス人材の実績づくり
- 継続的な人材育成プログラム展開の可能性の検討

④ 地域における交流の場づくりの実証研修の実施

- 上記①②の実証研修中山間地域における事業を育てる支援ネットワークを形成するため、担い手候補と支援人材を中心とする学びの場「まちむらビジネスカフェ(仮称)」の実証実験を実施
- 実証研修結果を踏まえた課題の抽出と解決方策の検討



⑤ 地域産業の担い手及び支援人材の育成カリキュラムの策定

- 上記①②④を踏まえた結果をもとに地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラム策定
- 今後の中山間地域における担い手及び支援人材育成に向けた提言

(2) 修正後の調査項目（確定内容）

① 地域産業の担い手及び産業支援人材育成のための実証研修の実施

- 平成20年度「担い手調査」で提言された担い手及び産業支援人材育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 交流プログラムとしての「まちむらビジネスカフェ(仮称)」の実証実験の実施
- 実証研修結果を踏まえた担い手及び産業支援人材育成研修における課題の抽出と解決方策の検討

② モデル地域における地域産業人材育成研修の実施

- 真庭地域において「担い手調査」で提言された木質バイオマス産業の担い手育成プログラムを受けた実証研修の実施
- 実証研修結果を踏まえたネットワークの形成とバイオマス人材の実績づくり
- 継続的な人材育成プログラム展開の可能性の検討



③ 地域産業の担い手及び支援人材の育成カリキュラムの策定

- 上記①を踏まえた結果をもとに地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラム策定
- 今後の中山間地域における担い手及び支援人材育成に向けた提言

4. 調査実施方針

調査項目	調査の実施ポイント
<p>1 地域産業の担い手及び産業支援人材育成のための実証研修の実施</p>	<p>(1)実証研修実施案の策定 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修の実施案を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実施案策定のための状況把握調査 ○ 実証研修テーマ等実施概要の策定 ○ 実証研修プログラム及び講師の選定及び調整 <p>(2)実証研修の実施準備 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修の実施に向けた準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師依頼及び管理に関する準備 ○ 開催会場等協力機関との調整に関する準備 ○ 受講者募集及び管理に関する準備 <p>(3)実証研修の実施 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 担い手及び産業支援人材育成研修の実施 ○ 交流プログラムとしてのまちむらビジネスカフェの実施 ○ 実証研修の記録 ○ 受講者へのアンケート調査の実施 <p>(4)実証研修結果の検証 中国地域の中山間地域市町村における地域産業の担い手及び産業支援人材育成を図る実証研修の実施結果をもとに課題と成果を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート調査結果の分析 ○ 受講者への受講後ヒアリング調査の実施 ○ 実施結果の検証
<p>2 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施</p>	<p>(1)モデル地域における地域産業人材育成実証研修実施案の策定 岡山県真庭市をモデル地域とし、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修実施案を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 木質バイオマス産業人材育成プログラムへの地元関係者の意向把握 ○ 実証研修テーマ等実施概要の策定 ○ 実証研修プログラム及び講師の選定及び調整 <p>(2)実証研修の実施準備 岡山県真庭市、地元団体との協力により、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修実施に向けた準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師依頼及び管理に関する準備 ○ 開催会場等協力機関との調整に関する準備 ○ 受講者募集及び管理に関する準備

調査項目	調査の実施ポイント
2 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施	(3)実証研修の実施 岡山県真庭市、地元団体との協力により、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修を実施する。 ○ 木質バイオマス産業人材育成研修の実施 ○ 実証研修の記録 ○ 受講者へのアンケート調査の実施
	(4)実証研修結果の検証 岡山県真庭市、地元団体との協力により、木質バイオマスに関連した先進的、専門的な技術を持った産業人材を育成するための実証研修の実施結果をもとに課題と成果を検証する。 ○ アンケート調査結果の分析 ○ 地元関係者の意見整理 ○ 実施結果の検証に基づく今後の展開に関する提言
3 地域産業の担い手及び支援人材の育成カリキュラムの策定	(1)地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラム策定 実証研修結果をもとに、地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムを策定するとともに、関連事業に関する提言を行う。 ○ 地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの策定 ○ 今後の中山間地域における担い手及び支援人材育成に向けた提言

5. 本調査で定義する中山間地域の対象市町村

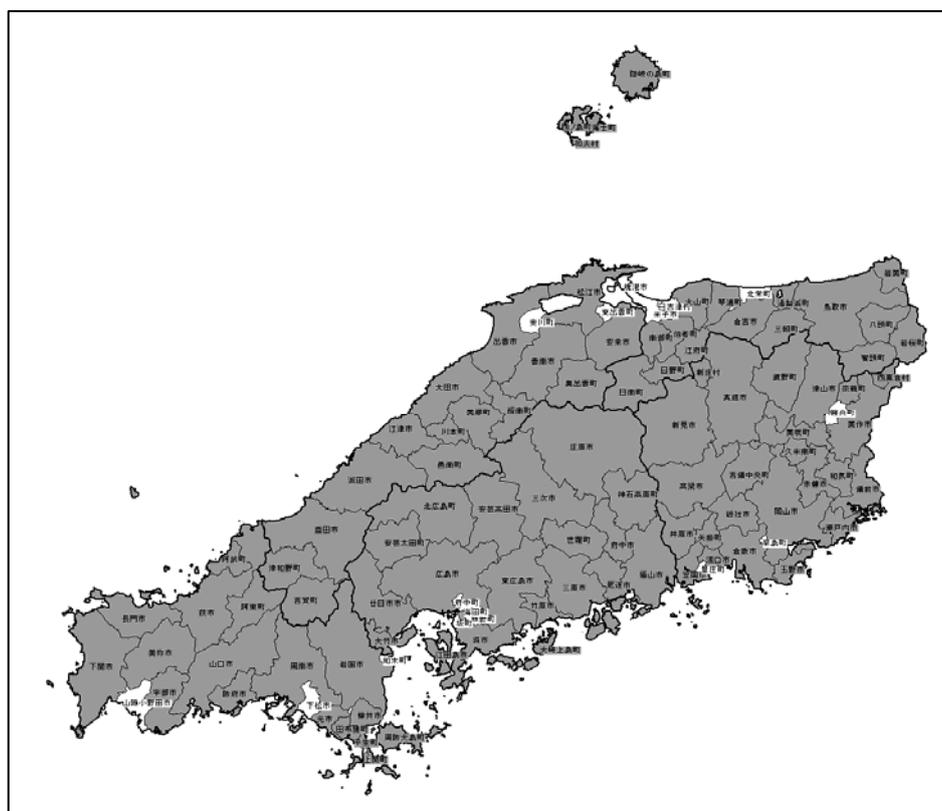
本調査における中山間地域とは、平成20年度において定義した「特定農山村」「振興山村」「過疎地域」「半島振興地域」「離島振興地域」の指定市町村を対象とする。

関係5法の指定状況

県名	特定農山村		振興山村		過疎地域		半島振興地域		離島振興地域		5法指定状況 (一部指定含む)
	全域	一部	全域	一部	全域	一部	全域	一部	全域	一部	
鳥取県	8	6	4	10	4	4	0	0	0	0	15
島根県	12	7	3	12	16	3	0	2	4	1	19
岡山県	6	16	2	17	11	7	0	0	0	5	24
広島県	4	14	0	14	9	7	1	1	1	6	19
山口県	2	11	1	8	8	5	4	0	0	11	17
合計	32	54	10	61	48	26	5	3	5	23	94

指定市町村(網掛けを除く市町村)

市町村名								
鳥取県	鳥取市	米子市	倉吉市	境港市	岩美町	若桜町	智頭町	八頭町
	三朝町	湯梨浜町	琴浦町	北栄町	日吉津村	大山町	南部町	伯耆町
	日南町	日野町	江府町					
島根県	松江市	浜田市	出雲市	益田市	大田市	安来市	江津市	雲南市
	東出雲町	奥出雲町	飯南町	斐州町	川本町	美郷町	邑南町	津和野町
	吉賀町	海士町	西ノ島町	知夫村	隠岐の島町			
岡山県	岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市
	新見市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市	浅口市	和気町
	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村	鏡野町	勝央町	奈義町	西粟倉村
	久米南町	美咲町	吉備中央町					
広島県	広島市	呉市	竹原市	三原市	尾道市	福山市	府中市	三次市
	庄原市	大竹市	東広島市	廿日市市	安芸高田市	江田島市	府中町	海田町
	熊野町	坂町	安芸太田町	北広島町	大崎上島町	世羅町	神石高原町	
山口県	下関市	宇部市	山口市	萩市	防府市	下松市	岩国市	光市
	長門市	柳井市	美祢市	周南市	山陽小野田市	周防大島町	和木町	上関町
	田布施町	平生町	阿武町	阿東町				



第2章 実証研修実施案の策定及び実施準備

1. 実証研修の検討フレーム

自治体における産業人材育成の状況・取り組み意識	企業における産業人材育成の状況・取り組み意識
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自治体による産業人材育成研修等はほとんど実施されていない。 <input type="checkbox"/> 産業振興策における企業人材育成活動の重要性の認識度は低い。 <input type="checkbox"/> 産業人材育成活動を実施自治体は全項目で1割前後。 <input type="checkbox"/> 企業リーダー人材育成はほとんど実施されていない。 <input type="checkbox"/> 企業支援人材(自治体職員)育成もほとんど実施されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経営者の人材育成の重要性に対する認識は高い。 <input type="checkbox"/> 小規模企業では人材育成意欲は高くても研修に参加させる余裕がない。 <input type="checkbox"/> 生産者、消費者等のステークホルダーとの交流機会を活用している事例。 <input type="checkbox"/> 経営ノウハウを連携している生産者の経営改善に提供する事例。 <input type="checkbox"/> UIターンによる人材確保に期待し、重視している企業が多い。 <input type="checkbox"/> 成長企業ほど人材育成機会に積極的。 <input type="checkbox"/> 販売先との人事交流で取引先の評価基準修得を目指す事例。

中国地域の企業・自治体における産業人材育成の状況・取り組み意識の考察ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ① 中山間地域の市町村においては産業の担い手・支援人材育成目的の研修が不足。その一方で企業の人材育成機会へのニーズは高い。 ② 成長企業は研修参加に積極的。小規模企業は重要性の認識は高いが、対象者が職場を離れにくい実情がある。 ③ 利害関係者との交流型人材育成に取り組む事例があり、未実施企業でも導入意欲を企業が複数ある。 ④ 農商工連携事業においては、企業の経営ノウハウを農業組織に提供、助言を行っている企業もある。 ⑤ UIターンによる人材確保を求める企業が多い。

類似研修の主な特徴	
<ul style="list-style-type: none"> 【施設を有効活用した内容】 【中小企業全般の育成ニーズ全般を網羅した内容、講師構成】 【フォローメニューとの連動性】 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市・農村双方の参加】 【農村地域振興との接点】 【座学と活動現場の組合せ】 【実践者中心の講師構成】
<ul style="list-style-type: none"> 【中山間地域の社会企業家の第一人者が直接指導】 【技術移転マニュアル活用】 	<ul style="list-style-type: none"> 【若手支援人材の育成に焦点を絞った研修】 【参加者の意欲が高い】 【他地域も注目する取り組み】

調査委員会の主な意見	
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中山間地域の産業の立ち上げ期支援における人材育成を研修目的として、対象・水準・目標を設定する。 <input type="checkbox"/> 具体的な企業の商品開発ニーズに応える内容とする。 <input type="checkbox"/> 平成20年度「担い手調査」の成果と担い手のつながりを活かした特徴付けを行う。
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中山間地域の産業の立ち上げ期支援における人材育成を研修目的として、対象を設定する。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中国地域の産業戦略に基づき、特徴となる産業分野の設定を行う。 <input type="checkbox"/> 総花的にならないよう、焦点を絞り、実効性の高い企画内容とする。 <input type="checkbox"/> 参加者の実践段階、指向性と視察現場先のマッチングがうまくいよう選定に留意する。 <input type="checkbox"/> 大都市から中山間地域を支えようとする動きをとらえた仕組みを組み込む。 <input type="checkbox"/> まちむらビジネスカフェは、地元との信頼関係づくりが重要であり単独での実証研修は行わない。
講師	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 講師：担い手及び支援人材として、産業振興を実践してきた実践者、第一線で活躍している経営者とする。
開催地	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ケーススタディ型の企画を実施する場合は、協力団体の理解を得て進める。 <input type="checkbox"/> 参加定員は使用施設の収容能力も考慮して設定する。

実証研修策定における重要ポイント

- 1) **基本方針**
 - 実証研修は、中山間地域における産業の担い手及び支援人材(官民共同の産業人材)の育成を目的とし、産業振興・地域振興マインドの醸成、地域資源を活かした事業開発の実践ノウハウの修得を目的とする。
 - 研修の基本構成は「担い手」「支援人材」「カフェ」をひとつの研修としてプログラム化したものとする。 □日程は2泊3日(1回開催)とする。
- 2) **受講対象**
 - 担い手育成においては、平成20年度「担い手調査」における「50人の地域ビジネスリーダー」に続く、次世代リーダー候補層とする。
 - 支援人材育成研修においては、上記企業側参加者の企業の立地する市町村の自治体等職員(産業振興担当者)とし、カップリングでの参加を促す。
- 3) **研修内容**
 - 基本方針に基づき、研修テーマを「地域資源活用ビジネスの立案」とし、産業戦略とトレンドを踏まえた資源活用方向を「健康・環境」とする。
- 4) **講師・開催地**
 - 平成20年度「担い手調査」に基づき、中山間地域の地域資源活用により成功モデルをつくった経営者、産業の担い手支援と担い手の両方の立場を経験してきた実践者などを講師に迎える。
 - 中山間地域の企業及び事業と連携している企業・支援機関等からの講師を選定する。 □開催地は、研修の趣旨、地理的な位置、施設環境などを考慮し、島根県中山間地域研究センターとする。

2. 実証研修実施案の策定

1. で整理した実証研修策定における重要ポイントを踏まえて、実施概要とそれに基づく研修プログラムの検討を行った。

なお、検討にあたっては、当調査委員会委員及び研修講師の中澤さかな氏（山口県萩市・道の駅萩しーまーと駅長）から貴重な助言、提案をいただき、内容に反映した。

（1） 実施概要

① 研修講座名

産業の担い手及び産業支援人材育成研修

② 研修基本方針

この研修は、中国地域の中山間地域にあつて、地域資源の活用によるビジネスモデルを確立するとともに、雇用創出、経済活動の活性化等をはじめ、様々なかたちで地域社会に貢献している企業経営者や市町村の産業支援人材の方々の実践の足跡と成長過程そのものを生きた教本と位置づけ、各地域において次世代の産業の担い手及び支援人材を育成することを目指して実施するものである。

③ 研修テーマ

- 基本テーマ「地域資源活用による中山間地域ビジネスの創出手法を学ぶ」
- 具体的テーマ「食と健康に関する地域資源を活かした中山間地域ビジネスの開発」

④ 開催日時

平成 22 年 1 月 20 日（水）13：00～同年 1 月 22 日（金）12：00（2 泊 3 日研修）

⑤ 開催場所

島根県飯南町（島根県中山間地域研究センター及び視察現場）

⑥ 受講対象

産業の担い手

平成 20 年度「担い手調査」で調査対象となった中国地域の中山間地域で活動する注目すべき企業等 50 社・団体の正社員または正職員で、次世代の担い手として期待される人

産業支援人材

上記企業の立地する市町村の産業担当課または産業支援機関における若手・中堅職員

⑦ 研修プログラム策定コンセプト（本研修の特徴）

- 1) 中国地域の中山間地域で活躍する産業の担い手に学ぶ現場重視の研修プログラム
中国地域の中山間地域における産業の担い手が有する実践ノウハウを次世代の担い手及び産業支援人材に提供してもらうことで、中山間地域産業の振興に関する形式知と暗黙知を学び、継承する場とする。
- 2) 官民協働参加による学び合う研修プログラム
中山間地域産業の成功事例には、企業活動を熱心に支援する信頼できる行政職員とのパートナーシップが成立していたことがあげられることから、相互理解の促進と学びあいの場とする。
- 3) 開催地の産業課題解決型ケーススタディで地域貢献性をもった研修プログラム
開催地の地域資源活用による産業振興方策の課題をもとに、ケーススタディのテーマを設定し、講師と受講生が地元関係者の協力を得ながら、課題解決についてワーキング形式で検討・提案する場とする。

⑧プログラムの基本構成

- 1) 中山間地域の産業の担い手、支援人材としての意識醸成を目的とする講義
- 2) 地域資源活用により「食と健康」型の事業開発ノウハウを実践者に学ぶ講義
- 3) 上記2の手法と考え方を深めるケーススタディ型ワーキング
- 4) 地域資源活用により「食と健康」型の事業開発に成功した起業家・支援人材訪問
- 5) 解説講義によるポイントの理解深耕

⑨ワーキングのプログラム

1) 実施目的

地域資源活用により「食と健康」型の事業開発ノウハウを実践者に学ぶ講義（上記⑧-2 参照）受講後に、講義内容を踏まえた実習活動を行うことで講義内容のポイントの定着を図ることを目的として実施する。

2) コンセプト設定の前提

中山間地域といえども様々な環境、条件の異なる中国地域各地からの参加を求めると、開催地とのつながりを重視する視点をもつことで次年度以降、市町村等からの開催協力を得やすくする工夫が求められることの2点を踏まえたワーキングとすることが求められる。

3) コンセプト

開催地（島根県飯南町＝中山間地域）における産業振興の課題を発見し、その課題解決をテーマとするケーススタディ型のワーキングとする。

4) ワーキング・プログラム

ケーススタディ

飯南町が特産として開発に力を入れているヤマトイモの販売戦略の立案
グループ演習形式

ワーキングの流れ（講師中澤さかな氏作成）

第1回ワーキング【地域資源の与件把握①】

- 対象資源（今回はヤマトイモ）のポジショニングを明確にするため、地元の生産者、加工業者、行政担当者取材を行い、産品や生産手法の特徴、各種データ、産品にまつわるストーリー、郷土料理等に関する情報収集を実施する。
- 収集した情報をもとに、最初のSWOT分析を行う。

第2回ワーキング【地域資源の与件把握②】

- 対象資源について、他産地の産品化状況や販促プロモーション状況及び産品の認知度や利用意向について検証し、特記事項を箇条書きでピックアップする。
- 対象資源のセールスポイントを端的に象徴するキーワードに整理し、キャッチフレーズにまとめる。
- 対象資源のネックと対処策の仮案をリストアップする。

第3回ワーキング【産品プロデュース～PR広報&販促プロモーション】

- 与件検証の作業を踏まえ、主要なターゲット層・ターゲットエリア・チャンネルを仮設定する。
- ターゲットをイメージし、商品化（メニュー・加工品）のアイデアをリストアップする。
- PR手法について優先順位をつけてリストアップする。
- PR&販促イベントを立案する
- 販路確保の手法について優先順位をつけてリストアップする。

(2) 産業の担い手及び産業支援人材育成研修プログラム

□1月20日 水曜日 [1日目]

時間	プログラム	備考		
12:00	受付開始			
13:30	オリエンテーション 1. 開会あいさつ 2. 研修実施にあたって	中国経済産業局 株シーズ総合政策研究所	演習の進め方 研修の留意点	
時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
14:00	『中山間地域における地域資源活用 ビジネス成功法』【60分】	緒方英雄氏 大分県日田市 (株)おおよ ま夢工房取締役総支配人 (元 大山町職員)	大分県日田市大山町における地域資源活用ビジネス成功 実践例を通じて、「地域資源の見かた、事業構想力・構想推 進力」「地域振興+産業振興+企業振興の視点の融合」 「企業等民間人材の役割 行政職員の役割」等について学 ぶ。	本研修全体のテーマの理解 を促し、参加者の目的意識 を共有する。
15:00	□解説講義 『講義をめぐっての意見交換』 【30分】	後藤昇氏 広島県自治総合研修セン ター研修企画監 広島大学大学院客員教授	【全体ワーキング】 参加者と講師の意見交換のコーディネートによるワーキン グを実施する。	上記講義内容の理解深耕を 図る。
15:30	【休憩 10分】			
15:40	『地域産業リーダーが伝授する地域 資源活用ビジネスの展開～食と健 康の視点から』 「①地域資源の与件整理とポジショ ニング評価」【60分】	中澤さかな氏 道の駅萩しーまーと駅長	資源活用ビジネスにおける情報収集活動の重要性を理解 するとともに、資源の価値を見抜き事業価値の分析方法に ついて、実践事例を通じて学ぶ。	H20年度「担い手調査」「50 人の地域ビジネスリーダー」 である中澤さかな氏を講師 に迎え、実践的なマーケティ ングのノウハウの理解深耕 を図る。
16:40	【バス乗車により移動】 飯南町役場2F会議室でのワーキング 道の駅赤来高原視察			

時間	プログラム	備考	
16:50	<p>□ワーキング 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」【90分】</p> <p>■訪問先① 飯南町役場2F 会議室 ■訪問先② 道の駅赤来高原</p>	<p>解説講師 後藤昇氏 取材助言 中澤さかな氏 地元講師 飯南町役場 田部宏幸氏 道の駅赤来高原 専務取締役 宮脇良晴氏</p> <p>①地元講師からの概要説明 20分 ②ワーキング 60分 ③道の駅視察 10分程度</p> <p>飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する。第1回は、上記講義を踏まえて、関係者取材を実施し、ヤマトイモの情報収集とポジショニング整理、問題発見の演習を行う。</p>	<p>地域資源活用事業の事業化における第一段階である「情報収集とポジショニング整理」を体験実施し、問題発見能力の向上を図る。</p>
18:20	終了		
18:25	【バス乗車により移動】⇒中山間地域研究センター		

【交流プログラム】

時間	プログラム	備考
18:30	参加者宿泊棟へ移動 休憩	
19:00	宿泊棟内食堂集合	
19:00	<p>ビジネス交流会 ゲストを交えての交流会</p>	<p>①ヤマトイモ焼酎開発に関する事例紹介 道の駅赤来高原・専務取締役 宮脇良晴氏 ヤマトイモ生産組合長 山崎一二三氏 ②参加者交流会 参加者自己紹介 情報交換</p>

□1月21日 木曜日 [2日目]

時間	プログラム	備考		
7:00	朝食			
7:55	研修棟 正面玄関集合			
8:00	バス乗車 出発			
【バス乗車により移動】⇒桜江町桑茶生産組合				
時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
9:30	『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』【60分】 ～地元で忘れられていた桑を見出し、商品化に成功したIターン夫婦の起業物語～	古野房子氏 (有)桜江町桑茶生産組合 常務取締役	①工場見学【15分】 ②現地講義【45分】 社長である夫・俊彦氏とともに事業開発・創業に尽力し、現在も経営者として妻として俊彦氏を支える房子常務の実践事例を学びます。	「資源の発見から活用」 「商品開発の試行錯誤」 「事業経営」「人材育成」についての気構え、リーダーとパートナー連携、後継者育成の重要性を学ぶ。
10:30 【バス乗車により移動】⇒風の国				
10:50	『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』【70分】 ～桑茶事業を成功に導いた行政と起業家の協働に学ぶ～	釜瀬隆司氏 江津市建設経済部長 古野房子氏 コメンテーター 後藤昇氏 進行 事務局	①釜瀬隆司氏講義【20分】 Iターン者である古野氏の経歴に着目し、事業化を支援。新産業創出と雇用の場の拡充を推進してきた行政側のキーパーソンに成功要因を学ぶ。 ②トークセッション 釜瀬氏及び古野氏のお話をもとに、中山間地域における企業と行政の協働のすがたを考える。	中山間地域における資源活用ビジネスの事業化に欠かせない要素である行政と企業の協働について実践例からその重要要因を学ぶ。 参加者からの質問、意見交換を交えて理解を深める。
12:00	◆ランチタイムミーティング【60分】 昼食とりながら、参加者を交えての意見交換			
13:00 【バス乗車により移動】⇒中山間地域研究センター				
15:00	地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から 『② 地域資源のプロデュース その手法あれこれ』【60分】	中澤さかな氏 道の駅萩しーまーと駅長	商品づくりの実践事例を通じて資源活用ビジネスのプロデュースのポイントを学ぶ。	中澤さかな氏を講師に迎え、実践的なマーケティングのノウハウの理解深耕を図る。

時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
16:00	□ワーキング 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」【90分】	講師 中澤さかな氏 進行 事務局	飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する。第2回は、上記講義を踏まえて、前日整理したポジショニング等の分析結果を踏まえ、商品化に向けた開発シナリオを作成する。	地域資源活用事業の事業化における重要段階である「事業化仮説の立案・検証」「開発・プロデュース」力を演習により習得を図る。
17:30	自由時間			

【交流プログラム】

時間	プログラム	備考
19:00	宿泊棟内食堂集合	
19:00	ビジネス交流会 ゲストを交えての交流会	『わが社・わがまち 自信の品プレゼンテーション』 参加者持参商品の紹介と品評会 コメンテーター 中澤さかな氏 竹岡宏文氏 (ひろしま信用金庫インキュベートマネージャー) 陣山繁紀氏 (中国経済産業局総務企画部長)
21:00	終了	

□1月22日 金曜日 [3日目]

時間	プログラム	備考		
7:00	朝食			
時間	講義	講師	講義概要	講義のねらい
8:15	地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から 『③ PRと販路確保プロモーション手法』 【75分】	講師 中澤さかな氏	商品づくりの実践事例を通じて資源活用ビジネスの販路獲得のポイント、プロモーションのポイントを学ぶ。	中澤さかな氏を講師に迎え、実践的なマーケティングのノウハウの理解深耕を図る。
9:30	□ワーキング 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」【90分】	講師 中澤さかな氏 進行 事務局	飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する。最終回となる第3回は、上記講義を踏まえて、前2回を踏まえ、商品の販路開拓・販売戦略とプロモーション手法を検討する。	地域資源活用事業の事業化における重要段階である「事業化仮説の立案・検証」「開発・プロデュース」力を演習により習得を図る。
11:00	休憩【10分】			
11:10	□ワーキング成果発表 「飯南町特産 ヤマトイモ活用商品の開発を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する」 【各発表10分×2班+講評】	発表 研修生 助言者 中澤さかな氏 進行 事務局	研修生のグループワーク結果を発表し、講師からの助言をいただくとともに、自身の事業計画への反映を考える。	成果発表による目標達成の程度を確認するとともに、助言をもとに自身の活動に反映出来るテーマやポイントを整理する。
12:00	◆ランチタイムミーティング【60分】 講評 全体を通じての意見交換 受講証授与	講師 中澤さかな氏 進行 事務局	研修全日程を通じてのポイントを講評いただく。	研修成果を今後の自身の活動に反映する上でのまとめを行う。
13:00	研修終了			

第3章 実証研修の実施と成果の検証

1. 実証研修の実施

講義 中山間地域における地域資源活用ビジネスとリーダー像

講師 緒方英雄氏 大分県日田市 (株)おおよま夢工房取締役総支配人 (元 大山町職員)

【講義のポイント】

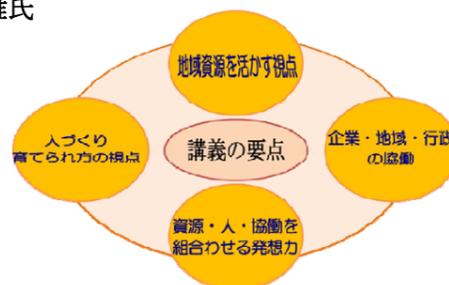
- 地域資源の見方、資源活用への事業構想力
- 地域振興、産業振興、企業振興の共通性
- 民間の役割 行政の役割
- 求められる産業振興のためのリーダー像

解説講義 緒方講師講義をめぐっての意見交換

講師 後藤 昇氏 広島大学大学院 客員教授、緒方英雄氏

【講義のポイント】

- 地域資源を活かす
- 企業・地域・行政の協働
- 資源・人・協働を組み合わせる発想力
- 人づくり 育てられ方の視点



講義『地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から』

1 地域資源の与件整理とポジショニング評価

講師 中澤さかな氏 山口県萩市 道の駅 萩シーマーと 駅長

【講義のポイント】

- 資源の特性把握の重要性と進め方
- 他産地・市場動向把握の重要性と進め方
- 徹底的に情報を調べ尽くす・取材力の重要性
- 対象資源のセールスポイント キャッチフレーズ
- 対象資源のネックと対処策の仮説設定

ワーキング『飯南町特産 ヤマトイモ商品開発研究を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する-1』

講師 後藤 昇氏、中澤さかな氏、田部宏幸氏 島根県飯南町役場職員、
官脇良晴氏 道の駅赤来高原 専務取締役

- 関係者への取材調査
- 販売先取材調査
- 第1次 SWOT 結果の講評

企業訪問『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』

～地元で忘れられていた桑を見出し、商品化に成功した！ターン夫婦の起業物語～

講師 古野房子氏 島根県江津市桜江町 有限会社 桜江町桑茶生産組合 常務取締役

【講義のポイント】

- 桑の葉に着目した発想力
- 事業創出にかけた起業家の情熱と努力
- 機能性食品としての付加価値づくり戦略
- 移住者と行政、住民の協働の重要性

**講義 セッション『桑を活かした地域発健康ビジネスの実践』
～桑茶事業を成功に導いた行政と起業家の協働に学ぶ～**

講師 釜瀬隆司氏 島根県江津市建設経済部長、古野房子氏、後藤昇氏

【講義のポイント】

- 移住施策における人材誘致の視点
- 地域産業振興に果たす行政職員の役割
- 地域発のオンリーワン商品開発における協働の重要性

**講義『地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から』
2 地域資源のプロデュース**

講師 中澤さかな氏

【講義のポイント】

- マーケット想定（主要ターゲット層・ターゲットエリア・チャネル）
- 商材（メニュー・加工品）アイデア

ワーキング『飯南町特産 ヤマトイモ商品開発研究を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する-2』

講師 中澤さかな氏

- ネットを活用した情報収集
- ポジショニング分析・第2次 SWOT 分析

**交流会『わが社・わがまち 自信の品プレゼンテーション』 参加者持参商品の紹介と品評会
～まちむら・ビジネス・カフェ形式～**

プレゼンテーション 発表者（6名）

コメンテーター

中澤さかな氏

竹岡宏文氏

広島信用金庫お客様サポート部

インキュベーションマネージャー



**講義『地域産業リーダーが伝授する地域資源活用ビジネスの展開～食と健康の視点から』
3 PRと販路確保プロモーション手法**

講師 中澤さかな氏

【講義のポイント】

- OVSとPRツールの整備
- イベントとパブリシティ
- 都市部での販売チャネルの確保

ワーキング『飯南町特産 ヤマトイモ商品開発研究を通じて資源活用ビジネス立案手法を習得する』

講師 中澤さかな氏



ワーキング成果発表（資料は抜粋掲載）

受講生がグループ討議形式で検討したヤマトイモ商品開発企画をまとめ、プレゼンテーションを行った。



A-資源の与件ピックアップ		ワークシート作成: 中澤講師 受講生の発表内容から
①キーワード抽出 ①②を組み合わせ、対象資源のセールスポイントを5つのキーワードにまとめる。		
1 効能に関するポイント	【ア 健康】 ■栄養価が高い ■滋養強壮 ■消化がいい	
【イ 美容】	■ダイエット効果がある ■美肌効果 ■新陳代謝がよい	
2 味・風味に関するポイント	■ねばりがある ■香りが高い	
次を踏まえて調べ、スベスベ、つぶつぶ、しっとりなめらか 「白」⇒黄肌+食材の色、内(健康)と外(美容)から選ん		
1本のキャッチフレーズに集約		
A案: 農出雲の美人芋		
B案: やまとなでこ ヤマトイモ 大和魂 ヤマトイモ		

A-資源の与件ピックアップ		④ネットの解消対策
①②を組み合わせ、対象資源のネットと対抗策の立案をリストアップ		
ネック	対応策	
生産量が少ない	希少な食材としての価値を訴える戦略を立案する	
目もらしにくい	冷凍保存商品の開発 定つきの場合、生鮮品でも日持ちする…定つきの状態で販売	
アクが出る	アクのプラス効果はないのか?さらに調査が必要	
ネーミング…他商品と差別しやしい粉らわしい	現在の商品名はパズに欠け、消費者に強い印象を残さないで 新たな商品名で販売する。	

2. 実証研修結果の検証

(1) 受講者アンケート結果にみる特徴

担い手及び支援人材育成研修については、受講者を対象としてアンケートを実施した。同アンケート結果から得られた主な特徴は以下のとおりである。

①参加動機と研修への事前の期待

- ・「地域資源を活かした事業開発に活用したい」「地域づくり全般に活かしたい」「企業と行政の協働による産業振興のあり方について参考にしたい」との意見が複数あった。
- ・上記の期待を反映して、研修前の期待がもっとも大きかった研修は、行政職員として地域産業振興を推進し、現在民間経営者として企業振興の担い手となった緒方講師の講義であった。

②研修全体を受講しての注目すべき意見

[選択回答から]

- ・研修内容に関する満足度は高く、各調査項目でほぼ100%の満足度となった。
- ・民間・行政の合同研修方式についても100%の満足度であった。
- ・今回のコンセプトに基づく研修が再度あった場合の参加意向は100%であった。
- ・研修スケジュールについてはやや不満が2割程度(2件)あった。不満要因はスケジュール過密。
- ・研修会場は参加者居住地からの距離、交通の利便性に比例した結果となった。
- ・宿泊施設ではやや不満が2割程度(2件)あった。不満要因は一人部屋希望、部屋にTV等がない点。
- ・運営についてはやや不満が1割程度(1件)あった。不満要因の記載なし。

[記述回答から]

- ・研修で得たことについては、「初期段階における徹底した情報収集・分析の重要性」(7件)、「地域を愛し、情熱をもって取り組むことの重要性」(5件)、「販路確保、マーケティングやブランディングの手法」(5件)
- ・仕事への活用についての意見としては、「地元資源に関する情報収集方法の見直し、徹底」(5件)、「商品開発に活用したい」(4件)
- ・その他の意見としては「仕事への熱意が増した」「今後もわかりやすいプログラムで実施してほしい」「座学だけでなくワーキングがありよかった」「スケジュールの再考を」といったものがあがった。

③各講義のなかで注目すべき意見

- ・リーダーシップのあり方(緒方講師講義)
- ・ポイント、キーワードの整理(後藤講師講義)
- ・わかりやすく、丁寧。3回を通じて講義内容への評価多数(中澤講師講義)
- ・起業家の情熱(古野講師講義)
- ・行政の役割と地元経営者との協働の重要性(釜瀬講師講義)

④フォロー取材においてフォローすべき事項

- ・研修に関する満足/不満足要因の具体的把握

[特に取材すべき事項]

- 「テーマ設定・講師選定のあり方」「ワーキングの進め方」「日程等運営に関する意見」
- ・今後の研修実施に関する意見

[特に取材すべき事項]0

「通常業務の向上に資するための研修のあり方」

要約編

(2) フォロー取材の実施

フォロー取材にあたってはアンケート調査結果を踏まえ、以下の項目から取材項目を設定し、実施することとした。

なお、取材対象は本研修の主眼である「担い手人材及び支援人材の育成」に関する追加取材を行う必要性から、民間＋行政の組み合わせでの参加となった島根県雲南市（民間：㈱吉田ふるさと村）、岡山県鏡野町（民間：NPO 法人てっちりこ）の2組への取材を行うこととした。また、民間企業団体については、研修への派遣を行う立場である経営者の意向を把握するため、平成20年度「担い手調査」の取材対象とであった経営者・管理者にも取材を行った。したがって、フォロー取材先対象は民間受講者2名、行政受講者2名、民間経営者2名の計6名とした。

(3) 研修実施後の講師からの意見

担い手及び支援人材育成研修について、実施後に講師からいただいた感想、今後に向けた改善点等主な意見は以下のとおりである。

① 良かった点（今後の継続に向けて継続またはさらに充実を図るとよい点）

【研修全体】

- いくつか改善していくことで、とても有効で、汎用性・拡張性も高くしかもオリジナリティのあるプログラムになると感じた。

【講師選定】

- 一人の講師が3日間通して講義を行うやり方が受講生の研修ニーズと合致しており、今後もこの方針を守るべきと感じた。

【対象】

- 行政職員と民間企業等からの参加者のペアでの参加を重視したこと、また、ペア参加の場合はあえて所属グループを分けてワーキングを実施したことで、両者に「官民の違いと共通点」「地域による違いと共通点」の2つの気づきの機会を提供する結果となっており、効果があったと感じた。

【講義スタイル】

- ワーキング中心の展開で、具体的でわかりやすい受講生主体の研修で良かった。

② 改善すべき点（今後の継続に向けて改善または再検討を行うべき点）

【研修プログラム】

- 講義とワーキングは、間に他のプログラムをはさまず続けてセットで繰り返す方法が、受講者にとってわかりやすいのではないか。
- 対象資源についての取材(対面・WEB)時間を確保する。
- エクスカーションは、独立した設定での企業訪問よりも、ワーキングのケーススタディと組み合わせ、対象資源の製造現場・販売現場・加工現場等にしたほうが研修全体のねらいがはっきりするのではないか。
- 生産量等、対象資源の基礎データについては事務局で収集・整理を行い、受講生に事前送付しておく。
- 全体のプログラムのなかで、グループワークの時間枠を拡大する。特に最後のプレゼンテーションのためのまとめ、発表準備は単独で時間を確保する。

【日程】

- 参加者に3日間業務をあけてもらって参加を募る日程は、参加したい側、させたい側にとっての負担が大きいのではないか。継続して実施する場合、参加企業・自治体の広がりをつくっていくには、もっと参加しやすい日程に再考すべきではないか。

(4) 実証研修内容に関する成果と課題のまとめ

担い手及び支援人材育成研修について、「受講者アンケート結果」「受講者フォロー取材結果（企業団体の担い手意見含む）」「講師意見」の3点を成果と課題の2つの視点から以下のように整理した。

凡例：■課題（＝改善要望） □成果（＝継続・充実要望）

<p style="text-align: center;">研修テーマ</p> <p>□地域資源活用による事業開発のテーマ設定は高評価。 □中山間地域の企業団体は、後継人材育成が大きな課題。当研修は、的確な内容と高評価。 (※受講後満足度 10 割)</p>	<p style="text-align: center;">研修内容</p> <p>■成功体験だけでなく、その課程での失敗体験から学べる要素を加えてほしい。 ■参加者相互の交流プログラムを追加してほしい。 □ワーキング重視手法は受講生主役の研修として高評価。</p>
<p style="text-align: center;">講師選定</p> <p>□起業家訪問は高評価 □行政職員の体験談は特に行政職員に高評価。 □メイン講師一人制は高評価。 □中山間地域の担い手講師は高評価。</p>	<p style="text-align: center;">研修対象</p> <p>■□官民共同受講は全課程合同方式を評価する層と一部分離方式を希望する層に2分される。 (※受講後アンケートでは満足度 10 割)</p>
<p style="text-align: center;">交流会</p> <p>■参加者間の交流を深める機会としてほしい。 □商品プレゼンでの助言は大変参考になった。</p>	<p style="text-align: center;">日程 会場 運営</p> <p>■「50人の地域ビジネスリーダー」企業の巡回開催にしてはどうか。 ■2泊3日は負担が大きく参加しにくい。 ■日程を詰め込みすぎないように再考すべき。 ■宿泊環境について改善してほしい。 □開催時期は業務上 12-2 月頃が参加しやすい。</p>
<p style="text-align: center;">受講後のフォローアップ</p> <p>■講師や参加者の情報をサイトやメールリストで継続して発信してほしい。 ■受講後、講師と参加者が集まるい交流機会を開設してほしい。 ■参加者・講師の信頼関係から、販路拡大や共同商品開発等につながる仕掛けを望む。</p>	

第4章 モデル地域における地域産業人材育成研修の実施

1. 研修のねらい

平成20年度「担い手調査」で報告された真庭地域での人材育成の提案を実証するために、真庭市において、バイオマス産業の担い手となる人材を育成するための研修を以下のようなねらいで実施した。

研修講座のねらい①
木材産業で生きてきた真庭地域における新しい木質バイオマス産業の創出という視点かにか立って、川上（林業）から川下（工業製品開発と流通）まで一貫した循環型の地域産業としての可能性を共有する。
研修講座のねらい②
技術型講座にとどまらず、バイオマス関連産業の基礎知識や利用技術、真庭地域の産業現場の体験、まちづくりや産業振興への展開等幅広い内容の実践型の研修を通じ参加者の関心を高める。
研修講座のねらい③
特定層の研修ではなく、バイオマス利用技術や地域づくりに関心のある学生、バイオマス関連企業経営者・従業員、幅広いバイオマス政策に関わる行政職員や関係団体職員等幅広い関心領域と年齢層を持った受講生が一堂に会することにより新たな出会いや交流機会を創出する。

2. 研修プログラムの作成

研修プログラムについて以下のように決定した。

【人材育成研修講座の開催概要】

1. 研修講座名
「木質バイオマス産業人材育成講座 in 真庭～森林から発想する環境産業と技術～」
2. 実施日時：平成22年1月30日（土）13：00～2月1日（月）16：00の3日間
3. 開催場所：真庭市（岡山県木材加工技術センター及び視察現場）
4. 主な受講生：学生（岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、津山高専）、真庭市内外企業社員、団体職員等（バイオマス関連企業、森林組合）、行政（真庭市職員、県民局職員、周辺市町村職員等）、30名程度
5. 受講費用：無料（ただし、宿泊費・交通費・食費・交流会参加費は参加者負担）
・・・宿泊先（勝山・原田旅館及び（落合）ハイランド落合（有料）
6. 研修カリキュラム
・教室における講義と現場の視察研修や講師との意見交換等

【研修講座カリキュラム】

日時	講座名	場所	講師等	講義概要(想定)
1日目 1月30日(土)				
12:30	受付開始			
13:00 ~13:20	■開講&オリエンテーション ・開講挨拶(真庭市長) ・オリエンテーション	木材加工技術センター	・真庭市長 井手 紘一郎 ・(株)三菱総研 川村雅人 研究主査	・市長の歓迎挨拶 ・講座のねらいと事務的手続き等
13:20 ~14:50 90分	■講義① 日本の林政の課題	木材加工技術センター	京都大学農学研究科 川村 誠 准教授	・わが国の林業の現状と林政の今日的課題を世界的な視野を交えてマクロに講義
移動(マイクロバス)10分				
15:00 ~16:30 90分	■視察研修① 木質バイオマス取り組み企業	銘建工業(株)	説明:銘建工業(株) 代表取締役 中島 浩一郎	・バイオマス発電やペレット製造、森林認証等真庭市の木質バイオマスへの先駆的企業での取り組みの解説と工場見学及び中島社長とのディスカッション
移動(マイクロバス)10分				
16:40 ~17:40 60分	■講義② 森林・木材産業の現状と課題	木材加工技術センター	銘建工業(株) 代表取締役 中島 浩一郎	・わが国の森林資源と木材産業のおかれている状況を海外材と国産材双方を取り扱う事業者の現場感覚をふまえて講義
移動・休憩20分				
18:00 ~21:00 講演 30分	■交流会 講演:勝山のまちづくり	場所「西蔵」	講師:(株)辻本店 代表取締役 辻均 一郎	・勝山の街並みを活かしたまちづくりを民間主導で牽引してきたキーパーソン(当事者)の立場から取り組みのねらいや経緯等を具体的に解説。 ・会費制・任意参加の気軽なパーティ形式の交流会
2日目 1月31日(日)				
9:00 ~10:30 90分	■講義③ 森林資源と木材利用技術の開発	木材加工技術センター	岡山県木材加工技術センター 藤長所長	・真庭地域の森林資源の活用のための多様な木材利用技術の開発について歴史的な経緯を含めて講義
休憩 10分				
10:40 ~12:10 90分	■講義④ バイオマス利活用と地域活性化	木材加工技術センター	岡山大学農学部 神崎浩	・農業系資源、林業系資源、生活系資源等のバイオマス利活用による地域活性化の方向等幅広い視点から講義
12:10 ~13:30	自由行動(昼食+勝山町並み散策等)			

要約編

13:30 ～15:00 90分	■講義⑤ 木質バイオマス利用技術講座1	木材加工技術センター	産総研 坂西バイオマス研究センター長	・燃烧、ガス化、生物転換：バイオエタノール)の開発動向と展望等バイオエネルギー利用技術についての基礎的講義
休憩10分				
15:10 ～16:40 90分	■講義⑥ 木質バイオマス利用技術講座2	木材加工技術センター	産総研 坂西バイオマス研究センター長	・木質バイオマス抽出セルロース、リグニン等のマテリアル利用法等バイオマテリアル利用技術についての基礎的講義
16:50 ～17:35 45分	■講義⑦ バイオマスタウンの取り組み概要	木材加工技術センター	説明：バイオマス政策課 大美課長 解説：仁枝事務局長	・真庭市が取り組むバイオマスタウンの構想・計画と具体的な取り組みについて紹介
3日目 2月1日(月)				
8:30～9:00(移動(市マイクロバス)30分)				
9:00 ～10:30 90分	■視察研修② 木質バイオマス取り組み企業	ランドス(株) 真庭バイオマテリアル(有)	講師：大月社長 解説：仁枝事務局長	・環境配慮型のコンクリート製品の開発や木質バイオマスのマテリアル利用の研究開発への取り組み解説と大月社長とのディスカッション
移動(市マイクロバス)・休憩15分				
10:45 ～12:15 90分	■視察研修③ 木質バイオマス取り組み企業	真庭バイオマス集積基地(木材事業協同組合) 真庭バイオエネルギー(株)	鳥越理事長 堀 専務 長田専務 解説：バイオマス政策課	・真庭工業団地に整備されたバイオマス集積基地整備のねらいや全体像と現地でのチップ製造への取り組み及び木質ペレット製造についての解説と現地視察
移動(市マイクロバス)・休憩15分				
12:30 ～13:30	自由行動(昼食等)			
13:30 ～14:30 60分	■講義⑧ 総括：真庭塾とバイオマス産業「バイオマスまにわの歩みと展望」	木材加工技術センター	(株)三菱総研 川村研究主査 21世紀の真庭塾 仁枝事務局長	・21世紀の真庭塾を中心とした、森林から発想する環境産業への取り組みの歴史と総括及び今後の展望について講義
14:30 ～14:50	■講師による講評と受講終了証授与	木材加工技術センター	講師代表 事務局	

3 研修講座の実施

講義① 「日本の林政と課題」

講師 川村 誠 氏 京都大学農学研究科森林・林業政策学分野准教授

【講義のポイント】

- かつてバイオマス王国だった日本は、高度経済成長期にいきなり木質エネルギー→石油・原子力へと世界でも特異な生活エネルギー転換をした。
- 木材需要の拡大で自給率が急減し輸入木材が急増
- 日本の林業だけが、無節の柱材にこだわり続け世界標準に適応できなくなった 座敷・床の間文化(接待文化)の崩壊(内なるグローバル化)による「柱角」林業の行き詰まり(国内市場が崩壊)
- 日本は、1970年代後半から10数年間林業イノベーションの谷間にあった⇒この間大規模集中処理化が進んだ北欧の林業に大きく水をあけられた(フィンランド・モデル)
- 国内「人工林」の資源化の道としては、「小規模分散型生産流通システム」と「大規模集中処理型生産流通システム」がある。日本の林業の特性を考えれば前者の確立が必要となる。

視察研修① 「銘建工業(株) 本社工場(勝山)」

現場解説 中島 浩一郎 氏 銘建工業株式会社代表取締役
NPO 法人 21 世紀の真庭塾 塾長

【解説のポイント】

- 事業の柱は、木質構造材(中断面、小断面、大断面集成材)で売上の9割超を占める。
- 原材料の9割は北欧を中心とした輸入材(良質なペレット材料が出る)である。
- 木質バイオマス事業は新事業(エコ発電、木質ペレット製造販売等)に位置づけている。

講義② 「林業・木材産業の現状と課題」

講師 中島 浩一郎 氏 銘建工業株式会社代表取締役
NPO 法人 21 世紀の真庭塾 塾長

【講義のポイント】

- 日本の林業と木材産業は建築用が中心で住宅着工件数の急減で青息吐である。
- 国は森林・林業再生プランで木材自給率50%を謳っているがリアリティがない。
- いまや高い国産材イメージはなく杉、桧の丸太価格は、米材、北洋材並に低下。
- 日本は、森林面積に対する木材生産量が、ドイツ、スウェーデン等欧州諸国に比べ数分の一と低く、製材業に元気が無い。
- 銘建工業では、欧州中心の輸入材による集成材が主力事業であるが、製造過程で生じるブレナー屑等を活用してエコ発電燃料やペレット原材料に利用している。

交流会 「勝山のまちづくり」の講話と懇親会(酒造レストラン西蔵(勝山))

講話 辻 均一郎 氏 株式会社辻本店 代表取締役
NPO 法人 21 世紀の真庭塾まちなみ再生部会部会長

【講話のポイント】

- NPO 法人 21 世紀の真庭塾が 1997 年開催した「環境まちづくりシンポジウム」で発表した「2010 年真庭の 1 日」で掲げたイメージのほとんどがこの 10 年強の間に実現している。
- 勝山のまちなみ再生も「ひな祭り」「のれんの街」「文化往来館ひしお」のオープンも実現

した。

○次は「2030年真庭の1日」を考えることが重要である。

【西藏における交流会開催】

○講師、地元関係者、参加者の交流の場として開催。

講義③ 「森林資源と木材利用技術の開発」

講師 藤長 恭常 氏 岡山県木材加工技術センター センター長

【講義のポイント】

- 世界及び日本の森林資源と木材生産・木材利用の比較（中国の木材需要の伸び等）
- 木材の基本的な構造と機能（優れた機能特性）木材は環境に優しい持続的資源（カーボンニュートラル、環境指標（森林認証、ウッドマイルズ等）
- 木材加工技術センターの木材利用技術開発への取り組み

講義④ 「バイオマス利活用と地域活性化」

講師 神崎 浩 氏 岡山大学農学部長・教授

【講義のポイント】

- インターネットで地域活性化やバイオマスを検索する（情報の集め方）
- 岡山大学での地域活性化システム論を開催
- 日本はバイオマスの地産地消で活路を見いだすべきではないか（森林バイオマス地産地消の政策）。そのためには、バイオマス燃料生産のみでなく資源のカスケード利用が不可欠。

講義⑤ ⑥ 「木質バイオマス利活用技術講座1&2」

講師 坂西 欣也 氏

独立行政法人 産業技術総合研究所中国センターバイオマス研究センター センター長

【講義のポイント】

- バイオマス利活用のあり方とエネルギー利用技術
- 木質系バイオマスの組織構造とバイオエタノール転換技術（前処理、糖化、発酵技術等）
- 国産バイオエタノール実用化への課題
- 産総研におけるBTL技術開発への取り組み
- シミュレーションによるバイオマス転換評価技術
- 木質バイオエタノールの実現に向けて（技術革新次世代型バイオエタノール、ゼロエミッション）
- アジアにおける持続可能なバイオマス利活用（バイオマスアジア戦略）
- 今後のバイオマス研究展開

講義⑦ 「バイオスタウンの取り組み概要」

講師 大美 康男 氏 真庭市産業観光部バイオマス政策課 課長

【講義のポイント】

- 真庭市バイオマス利活用計画とバイオスタウン構想
- 真庭地域バイオマス関連施設の取り組み事例
- 木質バイオマスの地域エネルギー利用システム構築
- バイオマス産業の創出に向けた地域連携の構築へ
- 市民の理解醸成活動の実施
- 普及啓発と産業観光の展開（バイオマス・ツアー）
- 今後の展開（第2ステージの向けて）
- 市民とつくる「資源循環型の産業と暮らし」

現場研修② 「ランデス株式会社」

講師・解説 大月 隆行 氏 ランデス株式会社代表取締役社長

NPO 法人 21 世紀の真庭塾 ゼロエミッション部会 部会長

【解説のポイント】

- 世界及び日本の森林資源と木材生産・木材利用の比較（中国の木材需要の伸び等）
- 木材の基本的な構造と機能（優れた機能特性）
- 木材は環境に優しい持続的資源（カーボンニュートラル、環境指標（森林認証、ウッドマイルズ等）
- 木材加工技術センターの木材利用技術開発への取り組み

視察研修③ 「バイオマス資源集積基地」及び「真庭バイオエネルギー㈱」

【真庭バイオマス集積基地】

解説 鳥越 康生 氏 真庭木材事業協同組合 理事長

【解説のポイント】

- 林地残材や製材所で発生する樹皮を利活用する目的で平成 20 年度に農水省、岡山県、真庭市、組合の資金でバイオマス集積基地を整備（建設費約 3.5 億円）
- 市民や企業の協力で搬出された丸太をチップに加工しパルプ原材料、燃料用、堆肥用等として販売。集積基地建设によりバイオマスの地産地消（収集⇒変換⇒利用の地産）を推進

【真庭バイオエネルギー㈱】

解説 長田 正之 氏 真庭バイオエネルギー株式会社 専務取締役事業部長

【解説のポイント】

- 真庭地域の木質バイオマス資源の利活用による循環型の付加価値創出型事業の起業化と地域産業の活性化を理念に起業化。メインの事業は木質ペレット（真庭ペレット）の販売で年間売上約 2 億円（北海道、東北（ボイラー用）、静岡、宮崎、福岡（園芸施設用）等）
- 新たなエコビジネスとして、農商工連携事業により、木粉、極細チップ等を開発し、オイル吸着剤「森の木粉」、シューズキーパー「森の香り」等の商品を開発

講義⑧-1 「バイオマスまにわの歩みと展望」

講師 川村 雅人 氏 株式会社三菱総合研究所 地域経営研究本部 研究主査

【講義のポイント】

- 真庭市の環境産業への取り組みの原点は、1993年NPO法人21世紀の真庭塾設立にある。
- バイオマス産業の創出にとって「木質資源活用産業クラスター構想」（2001年3月）の提案がターニングポイント（現在の取り組みの青写真を民間が描いた）
- 真庭地域での取り組みで特筆すべきは、地元への思いと高い志を持った民間有志と黒子である行政マンがNPO法人21世紀の真庭塾に集い、真摯に学びその成果を社会起業家として塾外で次々と事業化した点にある。
- 今後のバイオマス産業人材育成に向け、産学官一体となった推進体制の下で、①研究開発拠点の開設、②人材育成拠点の開設、③産学官の連携体制の強化、④人材育成事業体の設立を提案。

講義⑧-2 岡山県真庭地域における「木質資源活用産業クラスター戦略の展開」

講師 仁枝 章 氏 NPO法人21世紀の真庭塾 事務局長

【講義のポイント】

- 木質資源活用クラスター構想の目標は「持続可能な地域産業の形成」と「未来遺産である森林資源の保全」
 - ・山間部から排出される木質系資源活用による広域的な産業連携を実現する
 - ・真庭地域内での産業連携の一翼を担う新たな事業体を創出し地域活性化を先導する。
 - ・産学官連携で構想推進に必要な研究開発を推進する。

全体講評及び閉講・受講修了証授与

講評 川村 雅人 氏 株式会社三菱総合研究所 地域経営研究本部 研究主査

- 3日間の講義と視察研修、12人の講師が密度の濃い資料と熱意ある話であった。若い学生さんには、消化不良の部分もあったと思うが、木質バイオマス産業の全体像がなんとなく理解できたのではないかと思う。私も久しぶりに学生の気持ちで頭脳を駆使してかなり疲れた。
- また、講座と交流会を通じ、様々な立場・年代の方が一堂に集まり交流できたことは、真庭地域にとっても受講生の皆さんにとっても新しい可能性の場のスタートだと感じた。

閉講挨拶・修了証授与

宅見 幸一氏 中国経済産業局資源エネルギー環境部 課長補佐

4. 研修の成果検証と今後の展開

(1) 受講生のアンケート結果総括から見えてきたこと

- 本講座は、定員 30 名に対し、県外を含め 5 大学 1 高専から学生 19 名と教員 5 名計 24 名や NPO メンバー等受講生 45 名が集まる盛況であったことは大きな成果といえる。
- 林業やバイオマスの知識があまりない学生が多かった点を考慮すれば、本講座への期待や、受講後の講座内容や講師への満足度の高さは想定外であった。
- 大学の講義等に比べると、会場が手狭で休憩時間も短く、移動も多い上に多くのカリキュラムが詰め込まれた講座であった。それにもかかわらず、本講座受講者から高い評価を受けたことは、以下のような本講座の特色に起因するものと考えられる。

① 木質バイオマス産業を持続可能な環境産業として捉え、循環型社会づくりに貢献するという社会起業(ソーシャルビジネス)の視点から語られた点
② 林業(森林)から木材加工・注通、バイオマス資源のエネルギー活用、マテリアル活用さらには、地域経済やまちづくりとの関係等俯瞰的に捉え、川上から川下までストーリーを持ったカリキュラムを組み立てた点(バイオマス産業と地域づくりの関連性を幅広い視野から語った)
③ それぞれの分野の一流の研究者、地元の研究開発型の先進的な企業の経営者等の熱意や信念を持った講義及び社長自らが思いを語った視察研修だった点
④ バイオマスタウンづくりに取り組む真庭市が市長、副市長以下バイオマス政策課と NPO 法人 21 世紀の真庭塾メンバー企業等が精力的に運営に参画しサポートを行った点

(2) 今後の展開について

- 真庭地域においては、すでに産学官連携体制による新産業創出に向けたバイオマスリファイナリー事業の推進に向けた取り組みがスタートしている。その中で平成 22 年度 4 月に研究開発拠点(真庭バイオマスラボ)の設置とともにバイオマスリファイナリー事業の推進母体として協議会の設置を準備している。その計画の中で、バイオマス産業の人材育成も事業の柱と位置づけ、今回の実証型の研修講座の成果をふまえ、平成 22 年度から継続的なバイオマス人材育成講座の開催を計画している。
- 今年度の実証研修においては、真庭市バイオマス政策課総動員で準備・運営等に多くの時間を割き、また地元企業や県木材加工技術センター、産総研バイオマス研究センター、大学等の厚意によりネットワークを十分に活用することができた。このため、低コストで充実した研修講座を開催することができた。今後の人材育成講座の開催にあたっては、引き続き今年度のような行政支援は必要と思われるが、一方では、継続開催を担保するという視点から、研修実費の受益者負担等も視野に、できるだけ財政負担を抑えたなかでの開催方法を考えていく必要がある。
- 一方、エネルギーとマテリアルの両面の可能性を有する木質バイオマス産業は、地域資源に根ざした資源循環型の環境貢献産業であり、中四国地域においては、地域の特色を活かした次世代産業として大いに注目される。したがって、木質バイオマス産業の担い手人材育成は、新産業創出の重点政策に位置づけられることから、真庭地域を超えたより広域的な地域連携を視野に置いた戦略的な産業人材育成(=みらい型投資)という視点から国(経済産業局や農政局、関連機関等)県等の積極的な支援が望まれる。

第5章 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言

1. 産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムの提言

実証研修結果をもとに、地域産業の担い手・支援人材の育成カリキュラムを策定するとともに、関連事業に関する提言を行う。

(1) 地域産業の担い手・支援人材の育成プログラムの基本方針案

①目標とする人材像

本研修の目指す中山間地域の産業人材像は以下のとおりである。

- 地元(中山間地域)の地域資源の価値を発見・再評価し、事業価値に高めていくことのできる知見や専門性及び人脈等を有する産業の担い手人材
- 中山間地域の産業の担い手の事業活動を支え、地域経済の活性化と雇用機会の拡充に結びつく様々な機会及び人脈のコーディネートを行う産業の支援人材
- 中山間地域の雇用や後継人材の育成、地域社会における協調・信頼関係の向上に関する貢献意識の高い産業の担い手人材及び支援人材

②本研修のねらい

本研修のねらいは以下のとおりである。

- 中山間地域における地域資源の見方、分析に関すること
- 中山間地域の地域資源活用による事業(商品・サービス)開発に関すること

【重点分野】

- 地域資源を活かした食品開発(機能性商品含む)
- 地域資源を活かした観光(ツーリズム)サービス開発
- その他中国地方の特色といえる地域資源を活かした新事業開発

③基本方向

本研修の基本方向は以下のとおりである。

- 現場(職場)重視
中山間地域の産業人材育成に関する課題を起点とする研修内容
- 受講生重視
受講生自らが主体的・積極的に資質・能力向上を行うことのできる研修内容
- 成果重視
研修成果を業務に反映できることを重視した研修内容
- つながり重視
講師と受講生、受講生相互のつながりづくりを重視した研修内容
- 継続重視
研修参加時のみならず、受講後、職場での実務に継続的に反映できる研修内容

④研修の特徴

□中山間地域の地域資源活用型産業振興に関する資質向上に絞った研修とする。

【重点項目】

- 担い手に求められる企業人材としての意識及び実践スキルの向上
- 産業支援人材に求められる産業振興と地域振興を結びつけていく意識の醸成

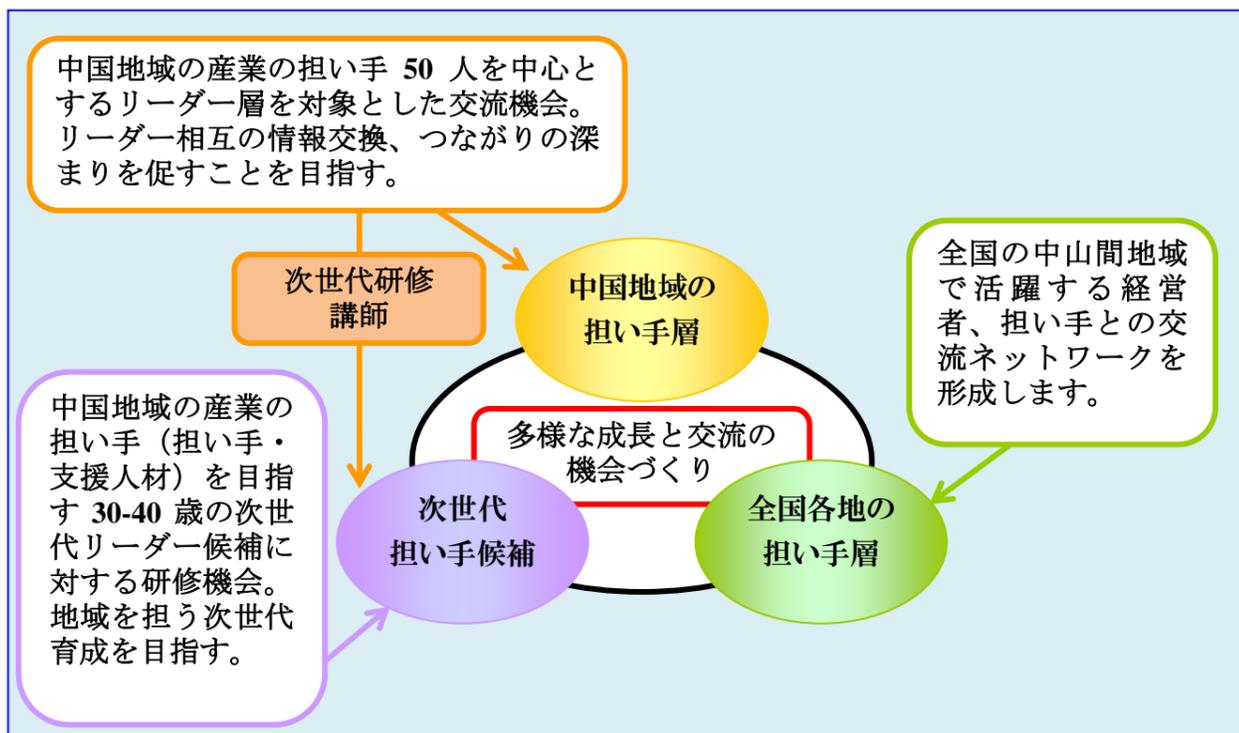
□企業団体等民間と自治体(産業振興担当課)や商工会・商工会議所等支援機関からの参加による官民共同研修とする。

□中山間地域の産業現場で担い手とともに学び、ともに考え、地域と交流する研修とする。

□研修受講後フォローアップとの連動性を確保し、成果を具体的に業務に反映できる研修とする。

⑤研修の体系

中山間地域の産業人材のつながりを重視し、人材育成の循環を促す仕組みとなるよう体系化を図る。



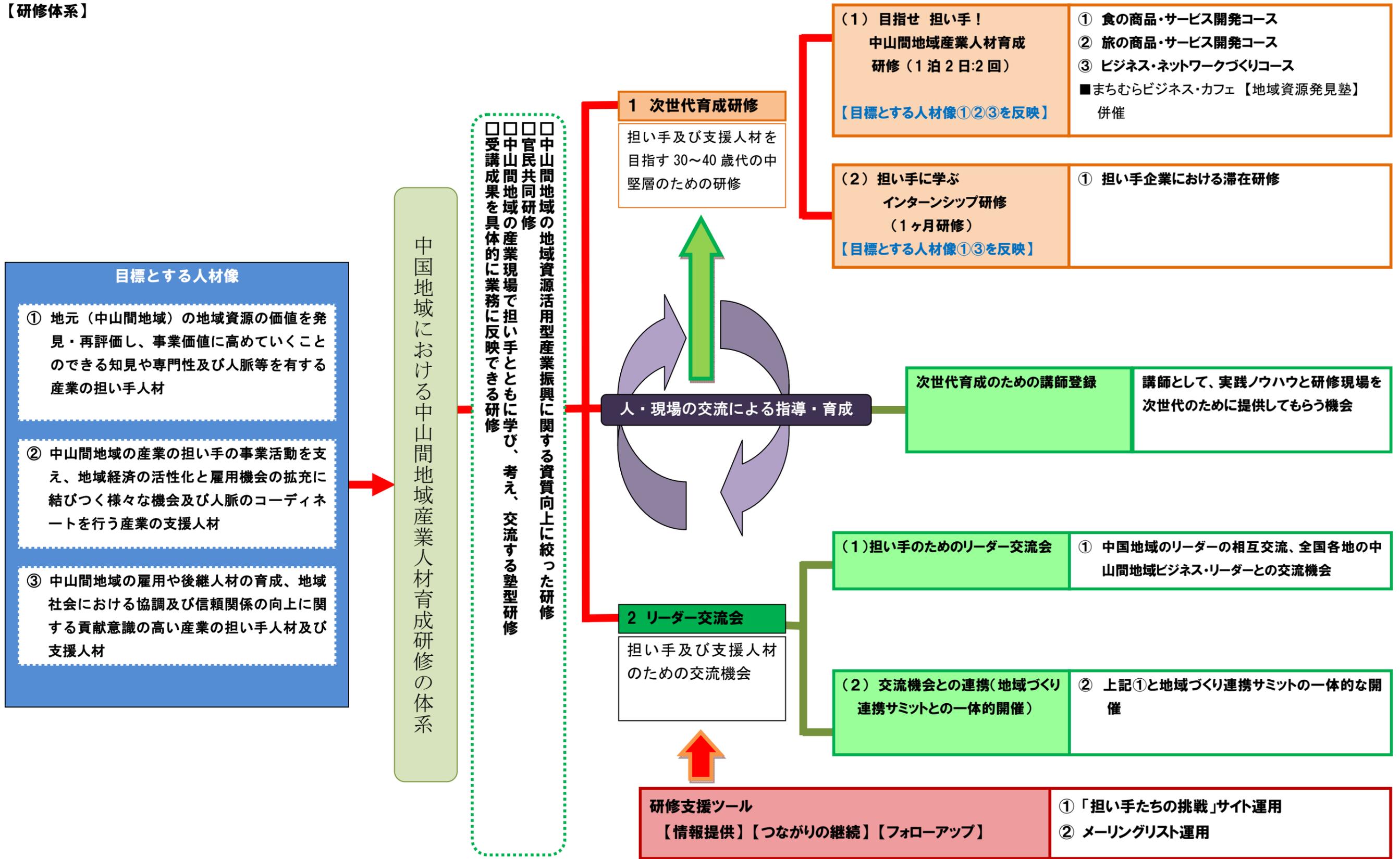
○次世代育成研修 担い手及び支援人材を目指す30～40歳代の中堅層のための研修

- ・目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成研修
(1泊2日研修 2回セット ※まちむらビジネスカフェ～地域資源発見塾併催)
- ・担い手に学ぶインターンシップ研修(1ヶ月研修)

○リーダー交流会 担い手及び支援人材のための交流機会

- ・担い手交流会(1日)
- ・交流機会(地域づくり連携サミット【※開催自治体・中国経済産業局等主催】との一体的展開 ※次世代育成のための講師登録、指導協力)

【研修体系】



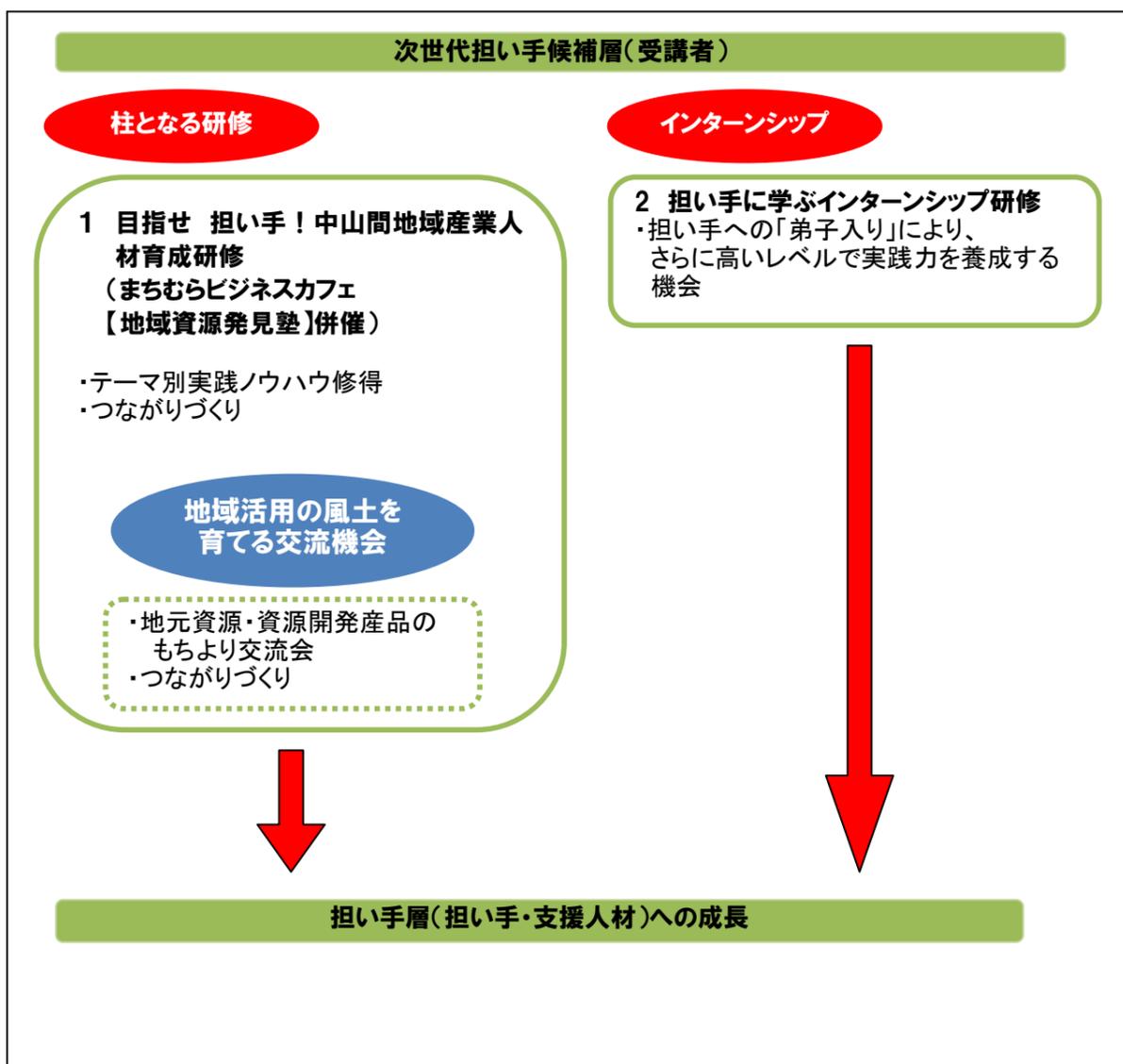
(2) 地域産業の担い手・支援人材の育成プログラムの各プログラム案

①研修の構成

1) 次世代育成研修の構成

次世代産業人材育成は、実証研修内容を継承し、受講生意見、講師意見に基づく改善を加える中で、新たにプログラムを追加し、2種類の研修で構成する。

□次世代育成研修の構成【成長段階に応じた研修の必要性】

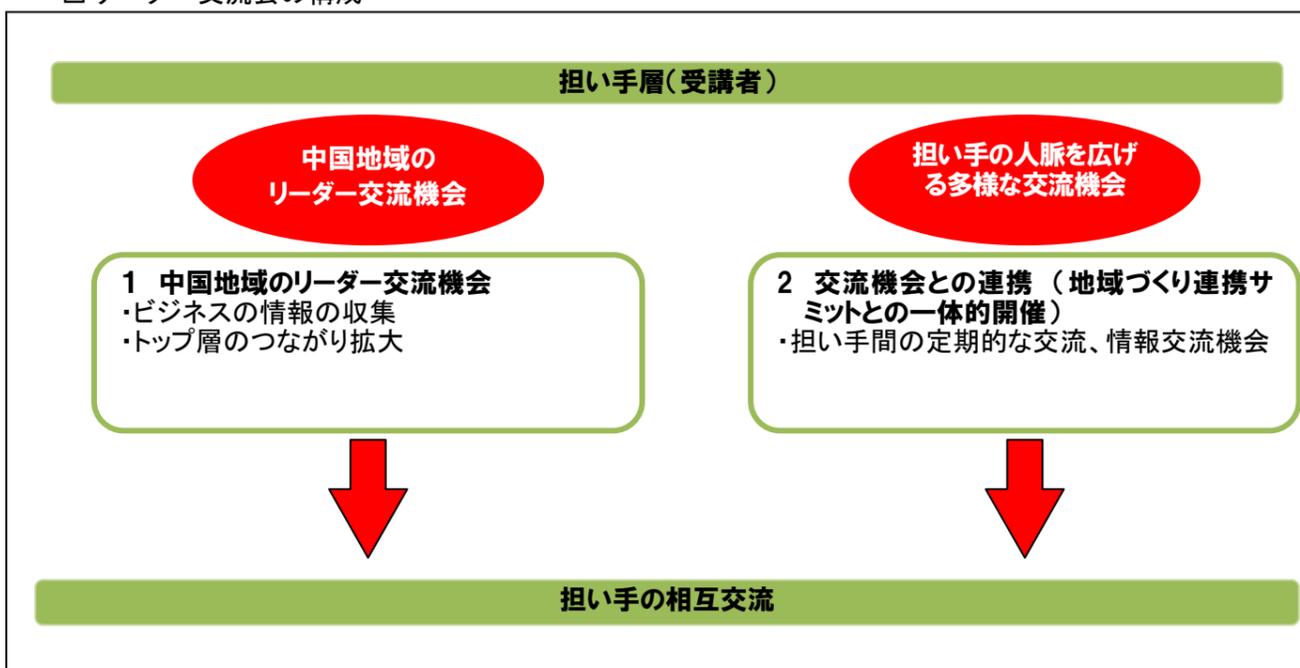


2) リーダー交流会の構成

リーダー交流会は、中国地域の中山間地域の担い手として活躍する経営者の相互交流機会を確保し、互いの事業活動に学び合う機会を提供することで、新たな異業種連携、地域間連携のきっかけづくりを目指して開催する。

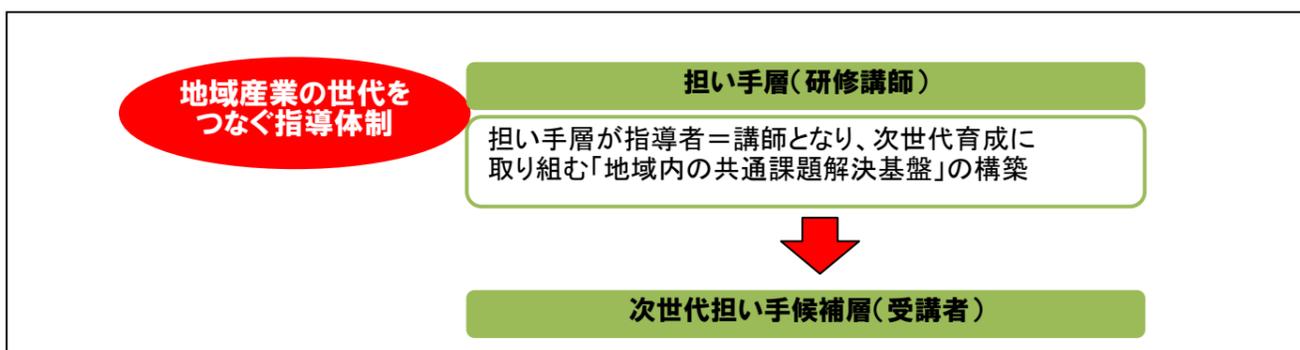
また、全国の中山間地域で活躍する担い手（企業経営者等）との交流機会をつくり、ビジネス人脈の拡充と企業の発展を支援することを目指して開設する。

□リーダー交流会の構成



3) 担い手の講師登録

担い手層が修得してきた実践ノウハウや経営マインド、地域振興マインドを次世代に継承するため、研修講師としての協力を仰ぎ、世代間のつながりづくり、循環する人材育成の仕組みの構築を目指す。



②次世代育成研修の実施概要

1) 目指せ担い手！中山間地域産業人材育成研修 ～中山間地域の官民共同産業人材育成研修～

目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成研修 ～中山間地域の官民共同産業人材育成研修～		定員	20人	1回 日数	1泊 2日	研修 回数	2回
研修目標	中山間地域での企業活動や産業支援活動に求められる地域資源活用及び販路開拓に関する実践スキルを修得するとともに、事業活動にあたる上での地域貢献意識の醸成を図る。	研修 時期	第1回:2月上旬 第2回:3月上旬				
特徴	<input type="checkbox"/> 民間・自治体(支援機関含む)の共同研修 <input type="checkbox"/> 中山間地域の企業で活躍する担い手の経営現場で研修開催。 <input type="checkbox"/> 中山間地域の企業で活躍する担い手が実践を通じて修得したノウハウを直接伝授。 <input type="checkbox"/> ケーススタディ型ワーキングにより問題解決能力の修得促進	研修 場所	中国地域の中山間地域で活躍する企業が立地する地域から選定				
対象者	担い手及び支援人材を目指す30～40歳代の企業及び行政等の中堅社員・職員	研修 方法	講義、グループ討議、演習、現地視察				
主な 研修科目	<p>【Ⅰ基礎編】地域産業振興マインド醸成と基礎的な実践スキルを修得する。</p> <p>A 食の商品・サービス開発コース ・中国地域の農林水産資源を活かした食の商品・サービス開発の実践講座</p> <p>B 旅の商品・サービス開発コース ・中国地域の地域環境や資源を活かした旅の商品・サービス開発の実践講座</p> <p>主な講義構成</p> <p>1 マインドアップ講義 2 地域資源活用による講義＋ワーキング(地域資源ポジショニング分析・活用 事業企画立案・プロデュース PR 販促プロモーション) 3 担い手企業視察</p> <p>【Ⅱ応用編】基礎編の成果を高める実践スキルを修得する。</p> <p>A ビジネス・ネットワークづくりコース ・食及び旅の商品・サービス開発にあたっては、その事業成果を高めていく上で消費者をはじめ、様々な支援者及び協力者、取引先等との信頼関係を構築していくことが極めて重要な成功要因となっている(平成20年度「担い手調査」)。 ・以上を踏まえ、効果的な消費者や販売先等多様な支援想定先との交流、連携手法及びその進め方を学ぶ講座を開設する。</p> <p>主な講義構成</p> <p>1 ステークホルダーとのつながりづくりに関する講義＋ワーキング 2 販売先関係者・消費者リーダーの講義 3 参加者間の交流型ワークショップ</p> <p>※各コースの実施イメージを次ページに掲載。</p>						

□各研修科目の実施イメージ

I 基礎編

【A 食の商品・サービス開発コース】

中国地域の農林水産資源を活かした食の商品・サービス開発の基礎講座

■実施にあたっての主な研修ポイント

- 地域資源の活用にあたっての着眼点
- 競合品に対する商品優位力の発見と磨き上げ
- 商品企画力とプロデュース
- 商品販売力と販路の選定
- 流通に関する創意工夫
- その他

【B 旅の商品・サービス開発コース】

中国地域の地域環境や資源を活かした旅の商品・サービス開発の基礎講座

■実施にあたっての主な研修ポイント

- 地域資源の活用にあたっての着眼点
- 競合観光地及び旅行商品に対する優位力の発見と磨き上げ
- 交流サービス及び旅行商品の企画開発とプロデュース
- 交流サービスの提供方法、旅行商品の販売手法
- イベント等プロモーション手法
- その他

II 応用編

【A ビジネス・ネットワークづくりコース】

食及び旅の商品・サービス開発成果をさらに高めていくため、実践現場で求められる消費者、支援者及び協力者、取引先等との信頼関係づくり、絆づくりを目的とする交流、連携手法及びその進め方を学ぶ応用講座。

■実施にあたっての主な研修ポイント

- 消費者、販売先等との支援ネットワーク体制のつくり方
 - ・消費者等との信頼、協力関係の手法と進め方
(例1：会員制顧客が、安全で品質の高い食品を製造する企業を購買行動によって支援する動きにつながる相互の信頼関係、絆づくりに関する消費者との交流活動、広報活動等に関する実践手法を学ぶケース。)
 - (例2：消費者や販売先とともに事業企画を進めていくコラボレーション手法を学ぶケース)
- ・都市からの1ターン者人材の確保・効果的な活用を図るための意識醸成と現場での実践手法
- ・その他

2) 担い手に学ぶインターンシップ研修 (1ヶ月研修)

担い手に学ぶインターンシップ研修		定員	1人	研修 期間	1ヶ 月	研修 回数	1回
研修目標	企業活動を通じて地域社会の向上に貢献することを目指す層を対象として、担い手企業での滞在研修を通して実践能力の向上を図り、成長促進を図るとともに、中山間地域の企業間人材連携を促進する。	時期	5月				
		場所	中国地域の中山間地域で活躍する担い手の企業現場				
		方法	研修計画に基づく実務体験				
特徴	<input type="checkbox"/> 担い手のもとで、滞在しながらマインドと実践スキルの向上を図る仕組み。 <input type="checkbox"/> 1ヶ月のインターンシップ期間における研修プログラムについては事前準備期間において両者協議の上設定。 <input type="checkbox"/> 研修終了後の成果発表交流会で両企業の交流を深める。						
対象者	○目指せ 担い手！中山間地域産業人材育成研修受講生						

③リーダー交流会の実施概要

1) 担い手のためのリーダー交流会

担い手のためのリーダー交流会		定員	若干 名	1回 日数	1日	研修 回数	1回
研修目標	中山間地域で活躍する産業の担い手の人脈づくり、情報の交流機会、事例発表機会を提供することで、新たなビジネスチャンスの開拓や担い手としての飛躍を促進する。	時期	※地域づくり連携サミットと併催				
特徴	<input type="checkbox"/> リーダー間の交流機会 <input type="checkbox"/> 担い手の事例発表機会 <input type="checkbox"/> 地域づくり連携サミットと一体開催。相互の学びと多様な参加層との交流機会を提供	場所	地域づくり連携サミット開催地				
対象者	中山間地域で活躍する企業等の担い手	方法	講義、事例発表、現地視察				
主な内容	1 講師講義 (全国の中山間地域で活躍する企業経営者) 2 企業視察 (事例発表)						

2) 交流機会との連携 (地域づくり連携サミットとの一体的開催)

1) の研修は過去2回(年1回)開催されている地域づくり連携サミット(開催自治体、中国経済産業局等主催)との一体的開催を目指すことを提言する。同サミットは、中山間地域の地域資源活用及び農商工連携による産業振興を促進するための意識啓発機会として開催されているもので、毎年、全国的な注目を集める企業経営者等の実践者を講師に迎え、中国地域の活動事例を発表する場となっている。また、同日夜の交流会には、「担い手たちの挑戦」掲載の地域ビジネスリーダーが多数参加し、リーダーたちの交流機会となっている。そこで、上記1)研修を同日午前に開催し、午後からの地域づくり連携サミット、夜の交流会と一体的なプログラムとすることで多忙な担い手にとって負担の少ないスタイルとする。

④中山間地域企業の共通課題である「人材育成」に関する仕組みづくり

実証研修においては、中山間地域で活動する実践者を講師に迎えての講義は、受講生にとって事業課題に関する実感を共有できること、現場ニーズに沿った研修内容であること等から大変好評であった。

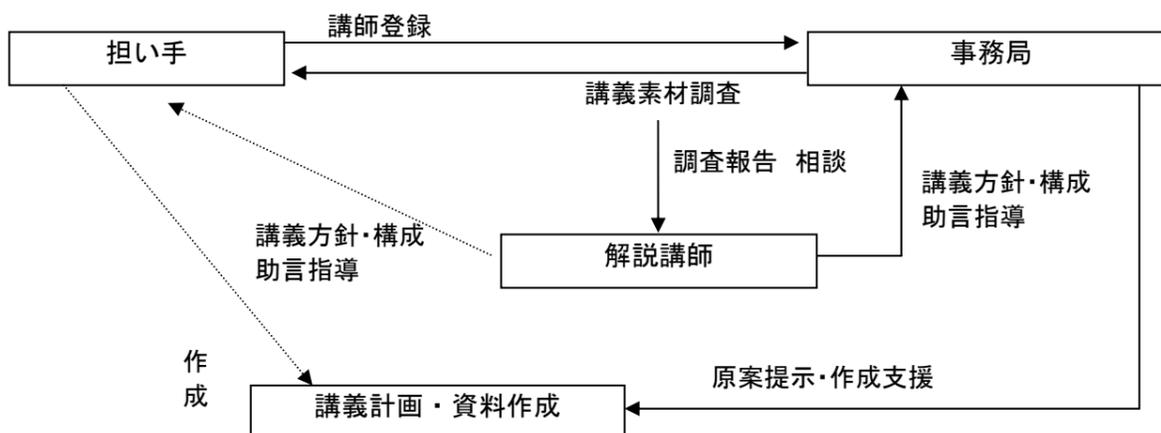
この成果は、こうした担い手自らが人材育成のための講師として協力する仕組みをつくることで、中山間地域企業の共通課題である「人材育成」に関する仕組みを構築することが可能になることを示すものといえる。

そこで、担い手の実践ノウハウや地域貢献への思いを次世代に継承するため、「担い手たちの挑戦」掲載の担い手50人の地域ビジネスリーダーを中心とする企業経営者に講師登録への協力を依頼する。なお、講義実施にあたっては、解説講師を依頼する大学研究者等の助言を受けながら、事務局の支援により講義計画・講義資料を策定した上で実施する。

解説講師は、研修プログラムに沿って、担い手の経験、実践ノウハウ等を用いた有意義な講義内容の設定について事務局を介して指導・助言を行う立場として位置づける。

この課程が担い手にとって、人材育成スキルを高める経験となる。こうした取り組みを通じて、中山間地域において人が育つ・人を育てる環境の向上を図る。

□講師登録から講義準備までの流れ 案



⑤情報交流ツール

本調査において、中山間地域の産業人材育成をサポートする目的で下記のWEBサイト「担い手たちの挑戦」及びメーリングリストを開設した。

主なコンテンツは中国地方の中山間地域における企業活動や人材育成研修に関する情報提供、対象者からの情報発信に関するコンテンツからなる。

今後も同サイトを活用した研修事前事後のフォローを行っていくことを目指している。

【初期のコンテンツ】

お知らせ 研修情報 企業活動情報等の発信

担い手たちの今（川村塾） 「担い手たちの挑戦」掲載の地域ビジネスリーダー50人のフォロー情報の掲載、新たな担い手の追加

次世代の担い手立ち（中澤塾） 次世代担い手（担い手・支援人材）候補の情報交換
※上記更新情報、掲載希望情報をメーリングリストにて収集・更新を行う。

⑥事業推進にあたっての体制づくり

次年度以降の運営体制については概ね以下の体制を想定する。

【平成22年度以降の実施体制】

基本方向

平成22年度においては、中国経済産業局のもとでの実施を前提とする。また、研修内容のフォローアップ及び将来的な研修推進体制について検討を行う「中山間地域の地域産業人材育成研究会（仮称）」を発足させる。

平成23年度以降の実施体制については、地域における自主的で持続的な課題解決の仕組みを構築することを目指し、上記研究会において、中国地域5県等との連携による運営体制への移行について実現可能性を探ることとする。